

富士山の女神

浅間神崇拜

富士山を礼讃する最古の記録は、8世紀の万葉集に収められた和歌です。遠く離れた奈良の宮廷人たちは、永久的で神聖な山として褒め称え、（富士山に）国の平安を祈りました。山頂から立ち上る煙はくすぶる情熱に喩えられ、全体として富士山は恐怖よりも畏敬の念を抱かせていたように見受けられます。

しかし、富士山には別の側面がありました。9世紀の記録に残されているような噴火は、富士山の持つ恐ろしい破壊的な力を知らしめました。当時の人々はこうした噴火を山の神の怒りと解釈し、荒れ狂う富士山をなだめようと新たな神社を建立したり祭祀を一層励行したりして対応しました。

富士山の神はアサマあるいはセンゲンという名で知られています。日本には他にも浅間山と名付けられた火山が存在することから、この名称の起源は火山活動に関連しているようです。万葉集の歌人たちの時代には浅間神の性にはほとんど関心が払われませんでした。富士山が噴火を繰り返した9世紀の間に、浅間神は明確に女神であると理解されるようになりました。